

本市の都市づくりと中心市街地の取組の概要

茨木市の都市づくりについて

茨木市の特徴

面積 76.49km²

人口 285,978人(R8年1月31日)

特徴

- ① 山半分まち半分
- ② 恵まれた交通環境
鉄道(JR・阪急)、大阪モノレール
名神高速道路IC
新名神高速道路IC など
- ③ 知的資源・文化資源が豊富
5大学10高校 約2万人の学生
- ④ 市民活動・地域活動がさかん



ダムパークいばきた



里地里山の景観



文化・子育て複合施設「おにクル」



元茨木川緑地



追手門学院大学



立命館大学

	学校名	協定書
	追手門学院大学	学校法人 追手門学院 協定書 締結日：平成16年7月28日
	梅花女子大学	協定書 締結日：平成18年11月13日
	大阪大学	協定書 締結日：平成19年5月14日
	龍谷大学	協定書 締結日：平成21年4月1日
	立命館大学	協定書 締結日：平成24年8月9日
	大阪府立大学	協定書 締結日：平成27年11月30日
	大阪府立短期大学	協定書 締結日：平成25年8月30日
	大阪府立大学	協定書 締結日：平成27年11月12日
	大阪府立大学	協定書 締結日：平成29年11月16日
	大阪府立大学	協定書 締結日：令和元年5月16日
	大阪府立大学	協定書 締結日：令和元年12月19日
	大阪府立大学	協定書 締結日：令和4年5月25日

市内外の大学と連携協定を締結

茨木市の都市づくりについて

茨木市都市計画マスタープランの改定(令和7年3月)

- ・都市計画分野のマスタープラン
- ・計画期間：令和7年から令和17年までのおおむね10年間
- ・景観計画と連携・整合

景観形成

○関連分野の計画：景観計画、ストリートデザイン
がドライン、屋外広告物がドライン等

- 方針7-1 適切な規制・誘導による景観形成の推進
方針7-2 歩きやすく、歩きたくなる魅力ある景観形成の推進

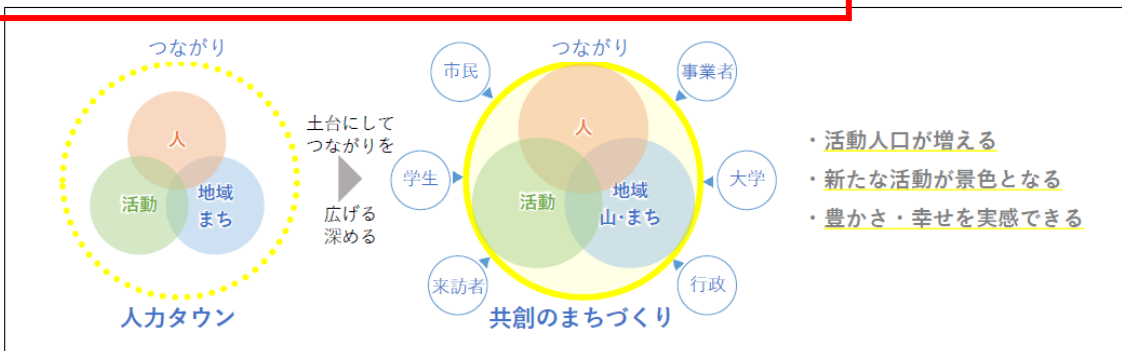


北部地域（自然景観） 椿の本陣（歴史的景観） 公共空間活用の社会実験

■市民と共に創るまちの姿 [P.30-33]

これまで積み重ねてきた市民参画の取組による「市民が考えるまちの姿」を土台に、「市民と共に創るまちの姿(暮らしのイメージ)」へと発展させ、将来ビジョンとして設定する

(1)基本理念 ～“考える”から“共に創る”「共創のまちづくり」～ [P.30]



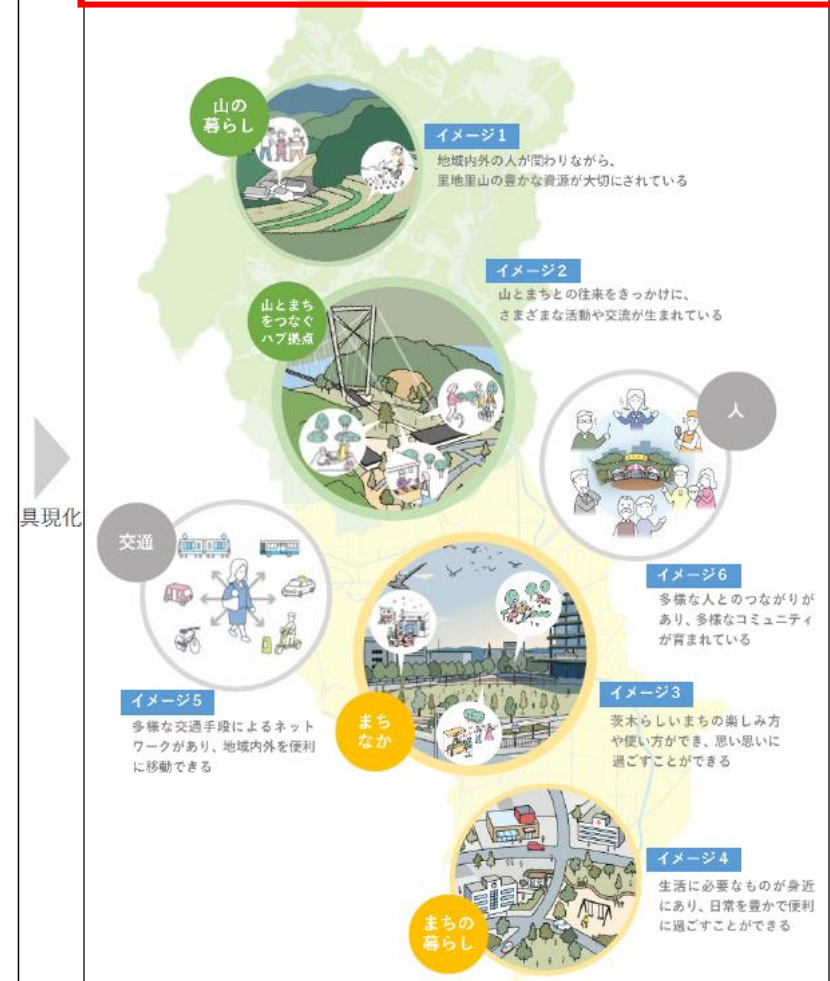
市民が考えるまちの姿

+ これからの都市づくりのキーワード

- ①人が育ち、人を育てるまち
 - ・地域住民と育む
 - ・担い手の発掘・育成
 - ・まちづくり組織
 - ・大学生が多い
 - ②挨拶があふれるまち
 - ・コミュニティ醸成
 - ・ソーシャル・キャピタル
 - ③「人持ちになろう」が合言葉のまち
 - ・関係人口の増加
 - ・活動人口の増加
 - ④たのしく散歩ができるまち
 - ・ウォーカブル
 - ・回遊性向上
 - ⑤夢に向かってチャレンジができるまち
 - ・おにケル
 - ・大学との連携
 - ⑥いろいろなくらしができるまち
 - ・生活圏の形成
 - ・カーボンニュートラル
 - ・二地域居住
 - ・デジタル技術の活用
 - ・サードプレイス
 - ⑦なりわいを大切にすまち
 - ・事業者との連携
 - ・エリアマネジメント
 - ・地域貢献
 - ⑧地元で循環するまち
 - ・循環経済
 - ⑨茨木のエエもんを育むまち
 - ・ひと・プロセス重視
 - ・文化芸術のまちづくり
 - ・地域資源の利活用
 - ・観光・交流拠点づくり
 - ⑩身近な自然を守り、使い、育てるまち
 - ・ダムパークいばきた
 - ・自然との共生
 - ・生物多様性の保全
 - ・みどりのネットワーク
 - ・カーボンニュートラル
 - ・グリーンインフラ
 - ⑪人に優しい交通システムを取り入れるまち
 - ・交通環境の維持
 - ・シェアモビリティ・シェアライド
 - ・自転車の利活用
 - ・MobaaS (マース)
 - ・車中心からひと中心へ
 - ⑫今あるものを工夫して活かすまち
 - ・社会実験
 - ・リノベーション
 - ・公共空間の利活用
 - ⑬もしもの時の備えができていくまち
 - ・安全・安心
 - ・自助・共助・公助
 - ・事前復興
 - ・地域防災力
 - ・レジリエンス
- 共通するキーワード
・ウェルビーイング

(2)暮らしのイメージ [P.31-33]

山とまちが調和した、魅力的で過ごしやすく暮らしやすいまち



茨木市の都市づくりについて

■都市づくり戦略【P.34-39】

「市民と共に創るまちの姿（暮らしのイメージ）」の実現に向け、分野横断かつ重点的に都市づくりを進めていくための「都市づくり戦略」を設定する

戦略1 山とまちを活かす・つなぐ【P.34-36】

戦略1-1 山を活かす

- 来訪者と地域住民の交流を促進するための拠点づくり
- 既存ストック等の活用に向けた開発許可制度の運用の円滑化・柔軟化



来訪者と地域住民の交流を促進するための拠点



ダムパークいばきた



見山の郷



おにクル



中央通り(2040年のイメージ)

戦略1-2 まちを活かす

- 2コア1パーク&モールの都市構造を活かした、ひと中心のまちなかづくり
- 駅前ならではの質の高い都市機能の誘導(2コア)
- 既存ストックや公共空間活用による魅力ある都市空間の創出(1パーク)
- 2つのコアを結ぶ歩きやすく、歩きたくなる空間デザインのストリートの創出(モール)



「2コア1パーク&モール」の都市構造

戦略1-3 山とまちをつなぐ

- 地域資源のネットワーク化による自然と共生する都市づくりの推進(みどりをつなぐ)
- 山とまちの移動を支える交通ネットワークの機能充実(みちをつなぐ)
- 山とまちのつながりや賑わいを広げる取組の推進(人・活動をつなぐ)



地域資源のネットワーク化

茨木市の都市づくりについて

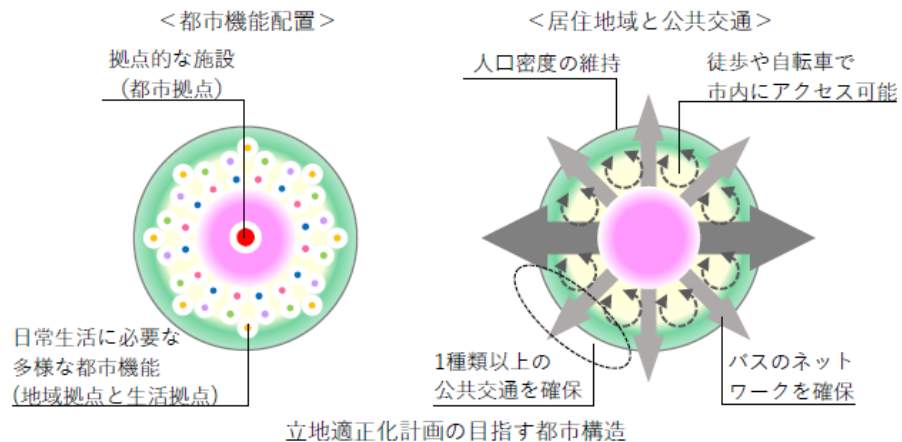
■都市づくり戦略【P.34-39】

「市民と共に創るまちの姿（暮らしのイメージ）」の実現に向け、分野横断かつ重点的に都市づくりを進めていくための「都市づくり戦略」を設定する

戦略2 拠点と生活圏の維持・充実により暮らしの質を高める【P.37】

戦略2-1 拠点と生活圏の維持・充実

- 地域拠点での公共交通軸と連携した拠点機能の維持・充実
- 生活拠点での生活機能の維持・充実
(暮らしやすさを維持するための予防的対応)
- 生活圏での暮らしの質の向上



戦略2-2 交通ネットワークの充実・強化

- 拠点間を結ぶ主要ネットワークとなる道路整備の推進と渋滞解消
- 公共交通の利便性向上と生活圏での移動の選択肢の充実

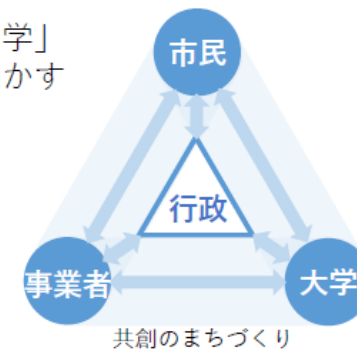
戦略3 魅力的な場と多様な活動により景色を創る【P.38】

- 多様な主体との活動のプロセスを重視しながら、まちづくりのステップを進める
- 活動が日常的に行われる「景色づくり」へと広げ、市域全体につながりと賑わいを創出する



戦略4 産官学民の多様な主体との連携によりまちを創る【P.39】

- 「市民」「事業者」「大学」のそれぞれが持つ力を活かす
- 地域に還元する「共創のまちづくり」を推進する



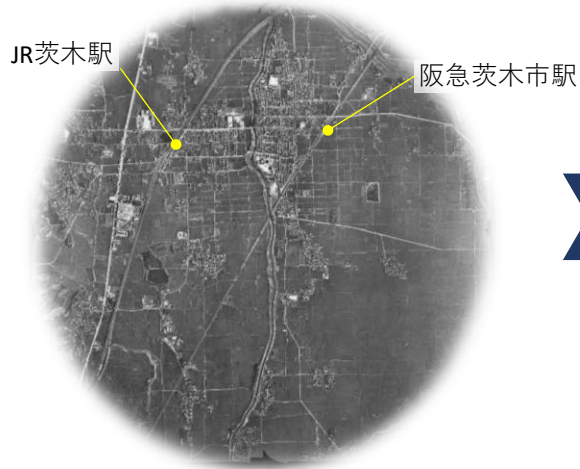
茨木市中心市街地での取組について

茨木市中心市街地の特徴

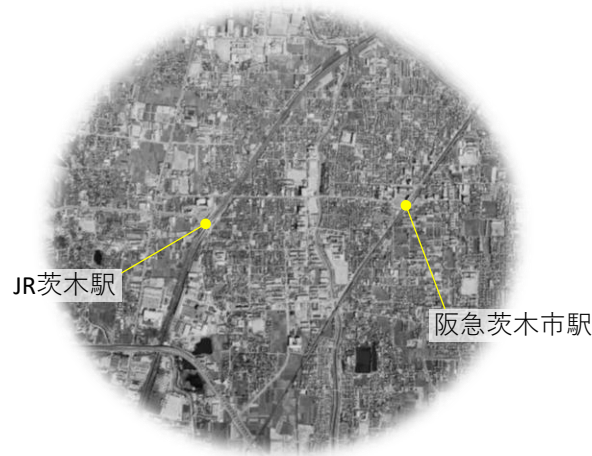
- ・高度経済成長期・大阪万博を契機にベッドタウンとして発展
- ・およそ半世紀が過ぎ、まちなかのインフラや施設が更新時期
- ・朝夕のラッシュ時には、交通渋滞が発生
- ・通勤・通学の鉄道利用者を中心に自転車が集中
- ・公共交通や企業バスが集中



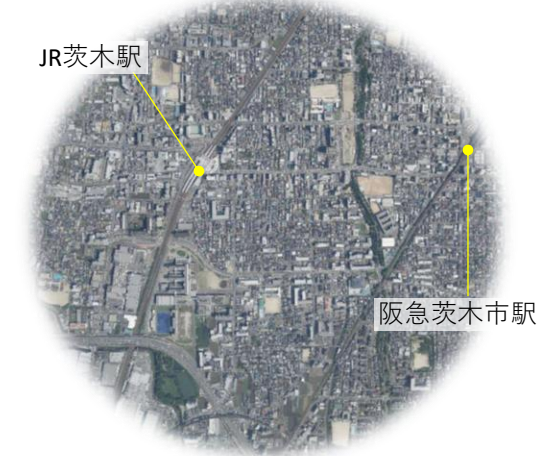
戦後



大阪万博開催後



最近のまちなか

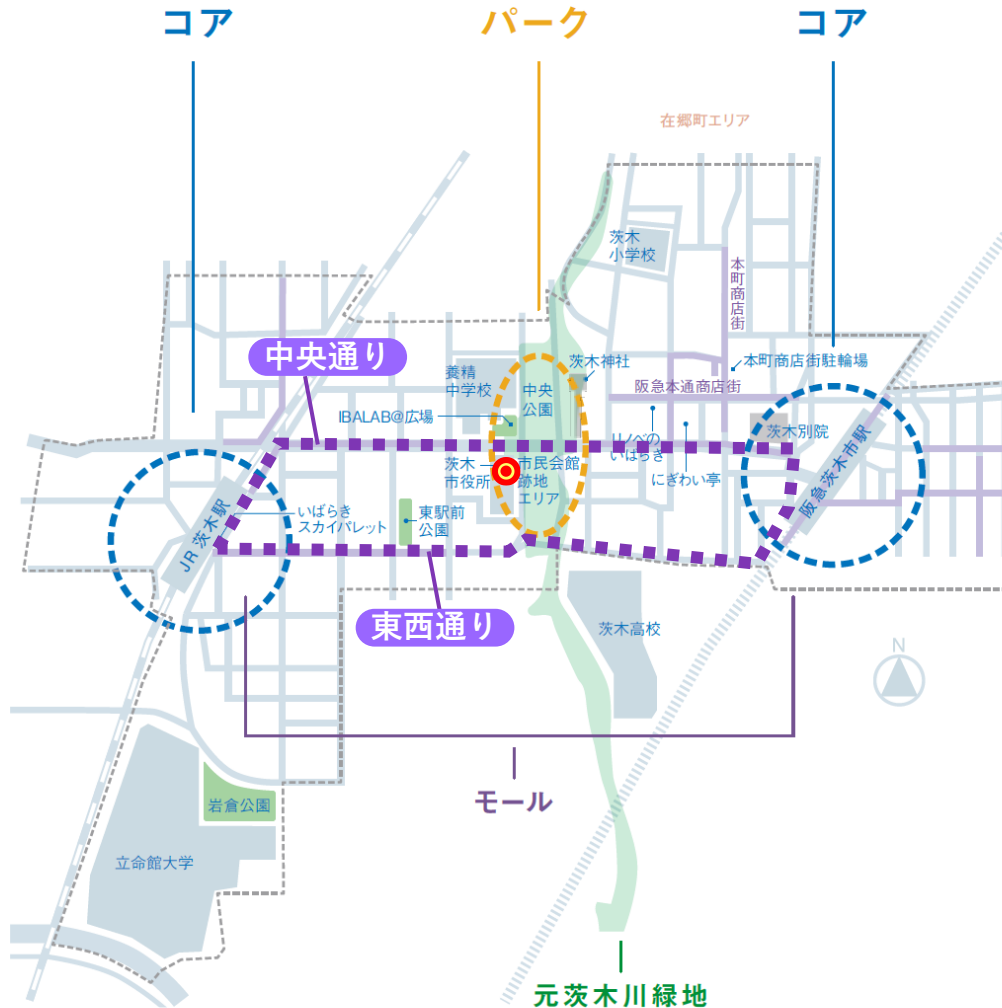


JR茨木駅・阪急茨木駅
西口整備

阪急高架化事業

茨木市中心市街地での取組について

2コア1パーク&モールの都市構造で大きく捉え、様々な取組を推進



茨木まちなか

JR茨木駅・阪急茨木市駅周辺



医療福祉や子育て等、市民の生活利便に応える施設機能を組み込み、市民の定期的な来訪の増加を図るとともに、交通や商業などの機能性だけでなく、居心地の良い憩える空間づくりを行っていきます。

おにクル・元茨木川緑地周辺



市民会館跡地エリアの活用を契機に、定期的なイベントやマーケット等の開催といった、多様な活用を可能とし、中央へと歩いて訪れる目的をつくることで、恒常的な賑わいを図っていきます。

中央通り・東西通り周辺



2つの「コア」を東西に結ぶストリートを「モール」として位置づけ、歩きたくなる空間デザインのストリートにしていくことで、商店街や公共施設との連続性を形成していきます。

茨木市中心市街地での取組について

J R西口



阪急西口



J R東口



阪急東口



JR茨木駅前商店街

立命館大学OIC



阪急本通商店街



茨木別院

おにクル・IBALAB@広場



元茨木川緑地



中央銀座商店街



茨木市中心市街地の現況

茨木市中心市街地での取組について



Project 01

市民会館跡地エリア活用

新たな市の顔としての複合施設「おにクル」や市民が憩い交流するための公園を一体的に整備し、高質で魅力ある都市拠点の形成を図る取組み

おにクル

2015年12月に元市民会館が閉館して以来、周辺の活用方法の検討を行い、2023年11月26日に開館しました。

設計・施工は2020年に公募で選ばれた竹中工務店・伊東豊雄建築設計事務所JV

BCS賞など18もの賞を受賞



2年で
来館者数
400万人
突破

コンセプト

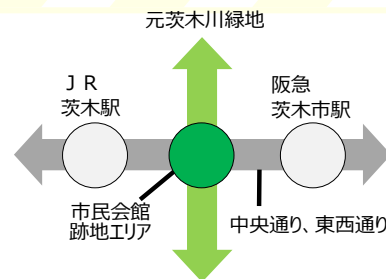
【日々何かが起こり、誰かと出会う】

7階建ての各フロアを貫く吹き抜け「縦の道」を中心に様々なプログラムが溶け合う、新しいタイプの公共施設

【立体的な公園】

南北に連なる元茨木川緑地の緑や芝生広場と、施設の各階テラスや施設内の緑がつながり、建築とランドスケープが融合した立体的な公園

茨木市中心市街地での取組について



Project 02

市民会館跡地エリア第二期整備

様々な人・過ごし方が、緩やかに空間・時間を共有し、人やアクティビティをつなげていくエリアとなることを目指した公園整備の取組み。



Project 03

市道市役所前線の空間再編 (歩行空間化)

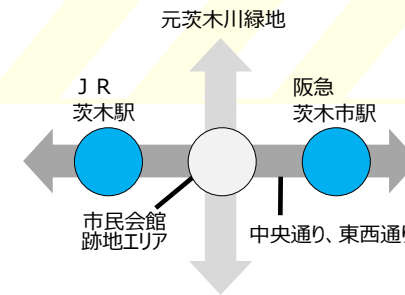
おにクル整備に伴い、利用者の増加が想定される市道市役所前線を現状の道路構成から、歩行者優先の空間へと再編する取組み。

茨木市中心市街地での取組について

Project 04・05

JR茨木駅・阪急茨木市駅西口再整備

市の玄関口として相応しい多様な都市機能の充実を図るとともに、更なる交通環境の向上及び持続性のある魅力・賑わい空間を創出する取組み



JR茨木駅西口駅前周辺

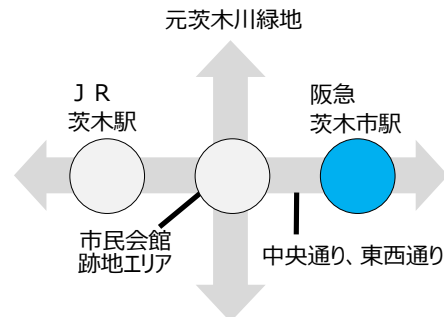


阪急茨木市駅西口駅前周辺

Project 06

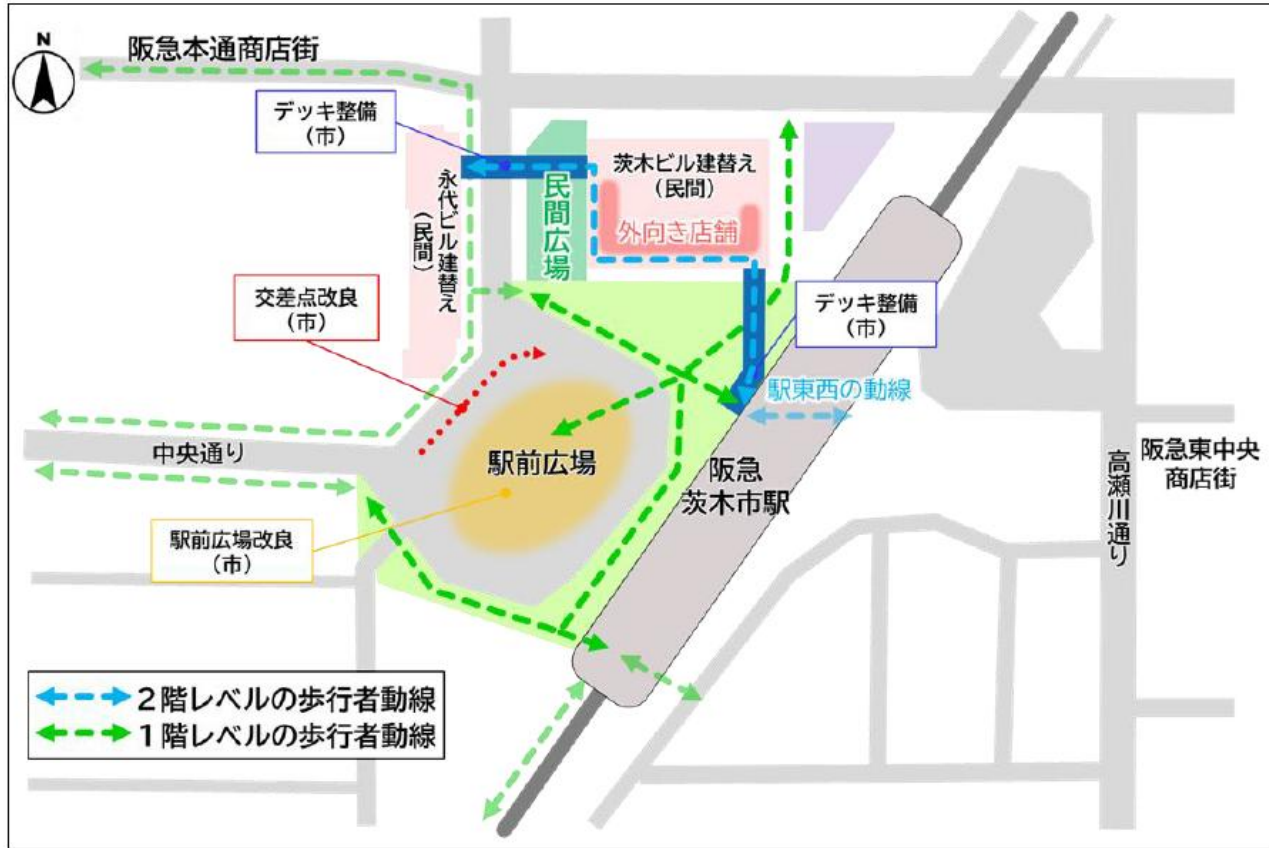
阪急茨木市駅東口病院誘致

市営双葉町駐車場に市の医療課題の解決に資する病院を誘致する。

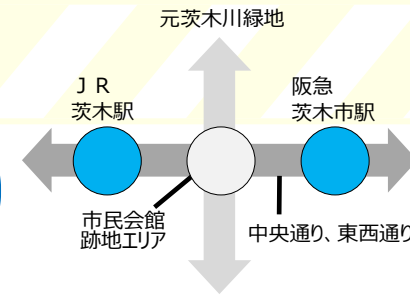


茨木市中心市街地での取組について

阪急茨木市駅西口再整備の概要



現況写真



・ソシオ茨木敷地内での自主建替えです。
 ・茨木ビル跡は現在の指定容積率600%内で、敷地内に民間広場を設けた高さ約86mの建物を計画しています。

	永代ビル跡	茨木ビル跡
敷地面積	1,417㎡	3,413㎡
用途地域	商業地域	
容積率(許容600%)	600%	600%
構造	鉄筋コンクリート造	
規模	地上13階	地上24階
高さ	約43m (屋上の塔屋、設備等は除く)	約86m (屋上の塔屋、設備等は除く)
住宅総戸数	107戸	212戸
住宅専有面積	約7,200㎡	約15,030㎡
店舗専有面積	約970㎡	約2,180㎡

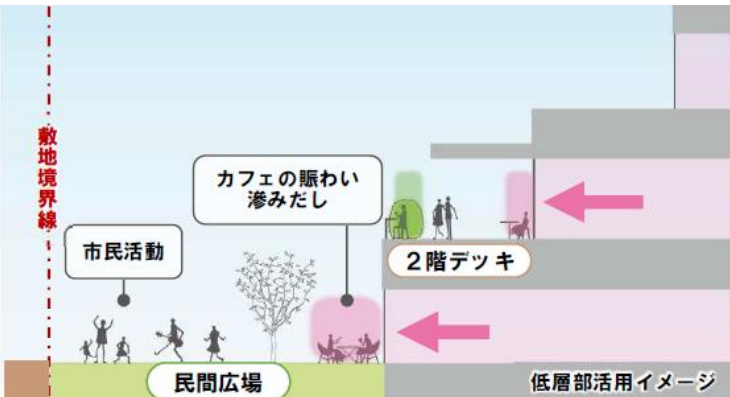
茨木市中心市街地での取組について

阪急茨木市駅西口 完成予想図(パース)

駅前ビル及び駅前広場の計画について
景観アドバイザー会議の開催を予定



外向き店舗と広場により賑わいが外部に溢れるイメージ



オープンカフェイメージ



市民の憩いのイメージ



自発的な市民活動のイメージ



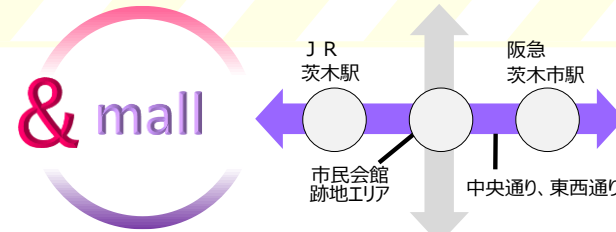
ライブ等音楽発表のイメージ

茨木市中心市街地での取組について

Project 07

ストリートデザインガイドライン

中心部の各拠点をつなぐメインストリートを、道路空間と沿道建築物が一体となった、歩いて楽しく滞在や活動したくなるような魅力ある景観形成を図ることにより、各拠点の賑わいを面的に広げ、中心市街地の活性化に寄与する。



中央通り [デザインコンセプト]

賑わいと交流を育む親しみやすいデザイン

気軽に立ち寄れるオープンなお店の店先で交流が生まれ、まちの賑わいや人々の活動が広がる通り



東西通り [デザインコンセプト]

身近にうるおいを感じる良質で落ち着きのあるデザイン

自然による癒しを感じ、おしゃれなお店でささやかな交流を楽しむ自由に過ごせる落ち着いた通り

